

大阪国語教育アセンブリー2014

第6分科会〈対話を含む表現活動〉「さまざまな聞き書きから一人との対話を作品集にー」

発表 大阪府立岸和田高等学校 田中 啓介先生

記録 大阪府立岸和田高等学校 辻林 汀

大阪府立今宮高等学校 富 ライラ

第6分科会では、授業で聞き書きを実践しようと思った理由やその実践報告、作品集の紹介と聞き書きの重要性について田中先生にご教授いただきました。

なぜ「聞き書き」なのか

- ・授業を少しでも面白いものにし、生徒に興味をもってもらうため。
- ・「聞き書く」には新たな出会いがある。その出会いの中には、「自分は何に興味があるのか」などの自己の内部の問題意識を見つめることで生まれるものもある。
- ・「聞き書き」には国語の要素がすべて含まれている。作品集にすることで構成やレイアウト、情報の取捨選択等の工夫する力を養うことも可能である。
- ・高校生の現状として私(プライベート)の場面では話すことを得意とするものの、公の場では話すことに苦手意識を持っている生徒が多い。聞き書きは公の場での性質を持ち、課題を克服するための手段となる。

具体的実践の紹介

①「総合国語」(2年生対象) 【先生の青春時代】

→授業時間を使って十分に取り組むことができた。先生方の協力を得ることができ、作品集にすることもできた。

②「暮らしの国語」(2年生対象) 【先生たちの青春のとき「私の高校時代」】

→①を活用したもの。よく取り組めており、時間をかけることもできた。

課題…生徒の性格や能力によって記事の出来にばらつきがでてしまう。

③「国語総合 現代文」(1年生対象) 【さまざまな方面への聞き書き】

→3クラスを担当しており、それぞれのクラスによってテーマを変えた。4名1グループでの活動。生徒は楽しんでいる様子だった。

課題…授業時数が3時間だったため、多くが授業外の課題となり、指導を十分にすることができなかった。

④「国語表現」(3年生対象) 【あの人に聞きたい インタビュー集】

→記事のまとめ方を中心に取り組む。学力上位者は少ないが、表現意識の強い生徒が多く様々な工夫がみられた。取材対象は誰でもよいとした。製本までに2ヶ月かかった。

⑤「国語総合 現代文」(1年生対象) 【私のクラスメイト紹介】

→聞き書く相手は男女ペアを基本とし、くじにより決定した。親しいもの同士の聞き書きによって緊張感が薄れるのを避けるため。HRで行うときは様々な配慮が必要。説明に1時間、実習に1時間、記事は授業外の課題とした。

⑥「国語表現」(3年生対象) 【国語表現インタビュー集】

→2学期の後半と多少忙しい時期ではあったものの、生徒はよく取り組んでいた。将来の進路希望を見据えた取材もあり、いい経験になった。

⑦「国語表現」 【聞き書きの練習】

→研究授業で取り組んだ。1クラス10名の少人数講座だったため、2名ずつ5グループに分け、5名の先生に協力していただいた。1時間で取材・原稿書き・発表を行うため、前時に田中先生がモデルとなり短時間インタビューの練習をしておいた。

まとめ

- ・「聞き書き」でも行う「問う」、「答える」は人間関係の基本であり、「聞き書き」によって瞬時に何を書くか考える力、臨機応変に対応する力、判断力を育成する事ができる。
- ・「聞き書き」を行う授業はスピーチやディベートよりも生徒が構えず、興味をもって取り組む様子がみられた。
- ・「聞き書き」は生活の延長線上にあり、日常生活に生かすことが十分できる。

質疑応答

Q、国語表現の評価はどのようにされているか。

A、課題点が半分、プリントの提出状況や記事の出来などで評価する。生徒間の相互評価は評価に入れない。取り組む様子をみて評価するようにしている。

Q、発達障害の生徒にとってインタビューはハードルが高いように思われるがどのような配慮をされたか。

A、実践の中にはそのような生徒はいなかったが、インタビュー相手が聾啞者であったとき、生徒とインタビュー相手はメールでやりとりをし、生徒はやり取りをそのまま記事にしていた。人と顔を合わせ話すことが苦手な生徒は、メールのやりとりでもかまわないのではないかと。

Q、できあがった記事が事実でないなどの問題点はなかったか。

A、下書きの段階でチェックをし、生徒にインタビュー相手のもとへ記事に間違いがないかチェックに行かせた。

Q、学校外のインタビューでの指導はどのようにされたか。

A、下書きの段階で「もう一回行かない？」などアドバイスをし、より面白い記事が書けるようにした。インタビュー相手に完成した作品集(毎回もって行かせるように指導されているようです)を持って行くと、みなさんに喜んでいただけた。

Q、「聞き書き」は生徒の国語力に生かされるか。教室での授業に生かせるか。

A、実感はないが表現の授業では楽しく取り組んでいる様子だった。なかなか目に見えにくい。

Q、感情移入せず客観的に事実を書くことを求めるか。

A、求めない。インタビュー相手は話を聞きたくて好きな相手であるから、記者的な立場をとらせるのは難しい。

Q、「聞き書く」力を日常生活の中で伸ばすにはどうしたらよいか。

A、繰り返すことが大切。単発的なものでなく長期的に取り組むことが出来れば力は身につく。

分科会の参加者による感想

「聞き書き」は生徒の「生きる力」を養うことができる手段の一つであり、生徒や学校の実態に合わせてテーマを決定し、実践していきたいと思いました。実際の作品集も拝見し、生徒が「聞き書き」を主体的に楽しみながら取り組んだ様子が分かりました。貴重なお話をありがとうございました。